

学生団体VcanがHPV啓発

宮古地区
医師会 医学生による情報提供

宮古地区医師会は9月30日、市保健センターでVcanの湧川立規氏を招き、HPVワクチンについての講演会を開催した。湧川氏は子宮頸がん予防の重要性やHPVワクチンの効果について詳しく説明。同医師会の奥平忠寛院長（奥平産婦人科医院）は、「HPVワクチンは非常に大事で、世界中でその効果を支持するデータが出ている。沖縄、特に宮古島は接種率が低く、この病気が日本で残る可能性がある」とコメントしている。

「Vcan」は、関西の医学生を中心とする学生団体。医学生の視点から同世代に向けて正しい情報を提供し、自己決定を支援するもの。医師の監修を受けた上で啓発活動を実施している。

講演では▽子宮頸がんの基礎知識▽HPVの一般性▽ワクチンの効果と副反応▽男性の接種に関する最新

情報などが提供された。また、参加者は〇×クイズを通じて、互いに知識を深め合う機会も持った。特



HPVワクチンについての講演会を開催した＝9月30日、市保健センター

に、子宮頸がんが若い女性に多く見られ、HPVワクチンによって最大90%予防できることを強調した。

奥平院長は、HPVワクチンの普及の重要性を訴えた上で、「宮古島でのHPVワクチンに対する認識は、過去の訴訟問題もあり、敏感な状況にあるが、正しい知識の普及が必要である」と述べ、将来的にはこのワクチンが標準になると信じており、若い世代からの発信を通じて接種率の向上を目指しているという。

参加者からは、男性もHPVワクチンを接種できることや、HPVの感染率の高さに関する新たな認識が示され、男女共にこの問題に取り組むことの重要性が再認識された。